

# 2019年度 学校評価報告書

学校名	三田市立上野台中学校
-----	------------

## 1 学校教育目標

「夢や志をもち、心豊かでたくましく生き抜く生徒の育成」  
 ～めざす学校像～《生徒一人一人の発達を支援し、安心して学べる環境づくり》  
 ◆成長を支える学校<学力の定着と向上、生徒の発達や学びの支援、特別支援教育の視点>  
 ◆健康・安全・安心の学校<基本的な生活習慣の支援、適切な危機管理>  
 ◆あたたかい学校<迅速・組織的生徒指導、教育相談の充実、共感的生徒理解、あたたかい言動>  
 ◆開かれた学校<学校・家庭・地域の連携、学校園所連携、関係機関との連携>

## 2 今年度の学校重点目標

①学力向上へ向けた授業改善の工夫 ②特別支援教育の充実  
 ③不登校生徒への支援の充実 ④家庭・地域及び学校園所連携の推進  
 ～「学力・学習意欲の向上」「自尊感情の育成」「自分で気づき、感じて、考えて、行動する力の育成」「家庭学習・自学自習の力の向上」～

## 3 総合的な自己評価

生徒は社会や学校で決められたルールやマナーを守り、学校行事に意欲的に取り組み、はじめのある学校生活を送ろうとしている。また、授業に真剣に取り組もうとしており、人の気持ちをわかって行動しようとして心掛けている。  
 学習指導として、主体的、対話的で深い学びに繋がるように、一人の大学教員に助言を受けながら、授業研究、職員研修や様々な取り組みを推進して2年経った。本年度教職員の異動が多かったものの、授業改善への工夫を新学習指導要領推進員を中心に、校区小学校と連携しつつ取り組みを進めた。また、支援を必要とする生徒へより良い支援策を、関係機関や専門家の助言を受けながら取り組みを進めることができた。

## 4 総合的な学校関係者評価

生徒たちが学校生活を楽しんでいる。オープンスクールや学校・学年通信、学校 HP、行事での参観で生徒の実態がよくわかる。更に発信や広報に努めて貰いたい。  
 生徒は教職員の授業の工夫を理解しているが、生徒の興味関心を引き出し探求心の向上に繋がる授業改善に期待する。学力向上のためにも引き続き個に応じた支援が大切で、「学びへ向かう力」が、家庭での自学自習にも、探求心にも繋がる。  
 ダメなことをすると教職員がきちんと指導すると生徒や保護者も評価している。教職員が個性を発揮しつつ生徒に向き合い指導することも大切にして貰いたい。生徒に見本となる教職員であり、危機管理意識の向上とその継続で、生徒は安心して更に落ち着いて生活できる。学校だけでなく、家庭や地域でも「顔を顔」のつきあいが大切だ。

## 5 評価結果

自己評価				学校関係者評価
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
学習指導	学校園所連携による学力向上への共通実践。授業改善の工夫、規律ある学習・生活習慣づくり。	校区幼小中学校全職員研修を2年目実施。保幼小中連携で「みんなで育てよう」の解説編を検証。授業改善への教職員の意識改革で成果。	「みんなで育てよう」解説編の検証。推進員中心に小中連携で授業改善を進める。	生徒の興味関心を引き出し、探求心の向上に繋がる授業改善に期待する。学力向上へ引き続き個に応じた支援が必要。
	主体的、対話的で深い学びに繋がる「分かる授業」への授業改善。家庭での学習習慣の定着と学力の向上。	県指定の授業改善促進事業で推進員が中心となり研究を推進。毎学期授業研究を実施し、研修。自学自習できる力や探求心を育むことが課題。	毎学期の研究授業実施で研修の積み重ね。小中連携で家庭学習の習慣化を図る。	学力向上の取組を堅持。「学びへ向かう力」を生徒がつける支援の工夫を。家庭での自学自習の力にも探求心にも繋がる。
生徒指導	教育相談の充実、生徒の共感的理解に基づいた生徒指導。不登校生徒や個に応じた発達への支援の充実。	「こころのアンケート」毎月実施で教育相談充実。不登校生徒の実態に応じた支援の工夫で生徒の安心感等に成果。専門家の助言等で個々対応に成果。	アンケートから早期に生徒の悩みを聞き取る。特別支援教育の更なる推進。	生徒への個に応じた指導・支援の工夫とともに、教職員が個性を発揮しつつ生徒に向き合い指導することも大切。
	「いじめ防止基本方針」に基づいた迅速かつ組織的な対応。	学校生活アンケートや「こころのアンケート」に基づく早期の相談体制に成果。教職員の意識改革や生徒の人間関係づくりへの支援が課題。	いじめを許さない個人・集団づくり。他者との関わり方を学べる指導の充実を図る。	発達に応じた支援や弱い立場の生徒への支援はどの生徒にとっても力となる。どの生徒も安心して生活できる学校に。
教職員の資質向上	新学習指導要領への移行、「特別の教科、道徳」の実施と充実。どの生徒にとっても分かりやすい学習指導の工夫、授業改善。	道徳の連続した職員研修実施により道徳教育の推進に成果。特別支援教育に基づく相談研修の充実と、生徒を支援する体制づくりに成果。	どの子も分かる喜びを実感できる授業によって学習意欲の向上を図る。	生徒は教職員の授業の工夫を理解。生徒の成長や頑張りや教職員が生徒に伝える工夫が必要。自信や主体性の向上に。
	人権意識・危機管理意識の向上と組織的対応。家庭・地域に信頼される学校づくり。	生徒の標語や公募ポスターの掲示、保護者や教職員からのメッセージなど、掲示環境の工夫により、あたたかい環境づくりに成果。危機意識が課題。	生徒が気づき、考え、関わる力の向上を図り、家庭との信頼関係づくりを更に進める。	ダメなことを教職員がきちんと指導すると生徒や保護者も評価。生徒に見本となる教職員に。危機管理意識の向上とその継続を。
開かれた学校づくり	学校園所連携で安心して学べる学習環境づくり。	学校園所連携へ組織的連携や活動の活性化。校区幼小中全職員研修実施。授業改善の推進員が校区小学校の授業研究会に参加し中学校で共有。	授業改善の連携と生徒の「自立と共生」へ4つの分野を中心に連携推進。	幼少や小小の交流をはじめ、幼中、小中の交流も活性化し、子ども同士や教職員同士の交流が良い影響に繋がっている。
	積極的な情報提供、学校・家庭・地域連携でより良い教育環境づくりと多様な教育力の活用。	学校通信を地域施設等で掲示、小6生・保護者への配付。『虹プロジェクト』で地域へ苗提供や生徒地域貢献活動と家庭・地域の学校支援活動の活性化。	学校と家庭・地域の双方向の奉仕・貢献活動の充実を図る。	中学校や生徒を見ることで実態がわかる。家庭や地域でも「顔を顔」のつきあいが大切。生徒の自立と共生への取り組みを。